２学年通信 No.20

2026（令和８）年　９月 15 日（火）
福山市立新市中央中学校

「この地図　使うのをやめて」　なぜ？

2026.9.6 朝日新聞

「メルカトル図法やめて」

アフリカ主導 国連決議採択

正確な大きさ示す地図 推奨

イコールアース図法

メルカトル図法

現在広く使われている「メルカトル図法」の世界地図ではなく、アフリカ大陸などがより正確な大きさで示される「イコールアース図法」の地図を採用するよう促す決議案が4日、国連総会（193カ国）で投票にかけられた。決議案は日本を含む164カ国の賛成多数で採択された。

西アフリカのトーゴが主導し、アフリカ各国が強く支持していた。アフリカの市民団体などはこれまで、この地図を採用することを求める運動を展開してきた。

決議案は、メルカトル図法ではアフリカなどが小さく示されることへの懸念を表明。大陸の大きさをより正確に表しているイコールアース図法の採用を、加盟国や国際機関などに推奨することなどを盛り込んだ。法的な拘束力はない。トーゴのドュセ外相は国連本部で報道陣に「アフリカと世界にとって歴史的な採択だ」と歓迎した。その上で「より忠実な描き方により、アフリカの本当の豊かさと可能性をより正しく伝えられる」と語った。

米国のみ反対

決議案には米国のみが反対。ウクライナなど6カ国が棄権した。米国の代表は「急進的でイデオロギー主義的な取り組みの一部だ」と批判。「このような決議こそが、この機関（国連）が信頼を失っている理由だ」と述べた。

メルカトル図法は16世紀に航海用につくられ、いまも日本を含む多くの国で使われている。ただ、北極・南極に近づくほど実際の面積より大きく見える。アフリカ大陸はグリーンランドの14倍の面積だが、この図法ではほぼ同じ大きさになる。

（ニューヨーク＝田中恭太）

なぜ、メルカトル図法はいけないのでしょう？１年の社会で勉強したことを思い出してみましょう。

メルカトル図法ではグリーンランドがアフリカ大陸とほぼ同じ大きさに見えますが、実際の面積はアフリカ大陸はグリーンランドの 14 倍以上あります。メルカトル図法では北極や南極に近いほど面積が拡大されるのです。これにより、欧米やロシアが実際よりも巨大に見え、アフリカや南米が小さく見えます。

結果として、無意識のうちに先進国を「強大で重要」ととらえ、発展途上国を「軽視」するような心理的偏見を生み出しやすいことが指摘されています。

人は目にする形から無意識に特定の印象を受け取ります。地図の種類は、人間の世界観や偏見に影響をあたえるのです。赤道付近の発展途上国やアフリカ大陸が「実際より小さく、重要性が低い」という無意識の先入観を形作っているという批判が以前からありました。

国連総会では面積比の正しい「イコールアース図法」などの使用を奨励する決議を行いました。アフリカの国が声をあげて、多くの国が賛成したのです。日本も賛成したから、次の教科書から世界地図が変わるかもしれません。

ちなみに、日本の東にある国はどこでしょう？昨年学習した内容です。メルカトル図法に慣れていると、つい「アメリカ」と答えてしましますね。正解は（　　）。

右の地図は北と南を反対にした地図です。ロシア、中国から見た日本の位置、ずいぶん違った印象になると思います。南が上で、北が下の地図を見ると、今まで気づかなかったことに気づきます。

『あの国の本当の思惑を見抜く地政学』サンマーク出版

「形」や「制度」が人間の意識、偏見をつくっていく。地図だけではありません。このことに気づき、いろいろな見方ができるようになり、それを変えていく。そのために私たちは勉強をしているのです。